

久宝寺事業センター

1 工場概要

- ▶ 住所 大阪府八尾市神武町2番35号
- ▶ 従業員数 約400名 (内 クボタ従業員:約270名)
- ▶ 敷地面積 38,921m²

2 事業概要

▶ 事業内容

久宝寺事業センター(以下事業所)の発足は、昭和48年。それまでクボタ創業の地である船出町工場(大阪市内)で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍的拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。昭和52年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、昭和60年には電子機器の組立部門が発足。さらに昭和61年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進しています。一方、事業が拡大した自動販売機部門は、平成元年に新しく建設された竜ヶ崎工場(茨城県)へ移管されました。

現在では、計量器や精米機などの電装機器事業及びその関連会社である(株)クボタ計装関西支社、そして、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)が業務を行っています。

▶ 主要製品

(1)株式会社クボタ 電装機器事業部

計量機器関連事業

<標準はかり>



台はかり



防塵防水台はかり



耐圧防爆台はかり



重量指示計

<トラックスケール>



トラックスケール



ホイストスケール

久宝寺事業センター

計量システム関連事業

<LPG充填システム>



回転式ACAD型充填機

<粉粒体供給システム>

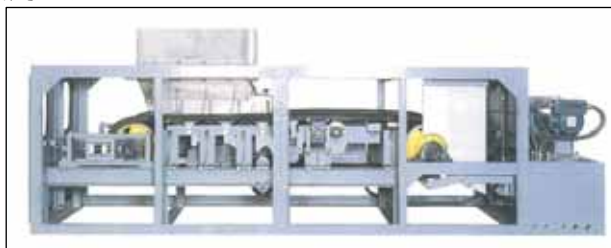


ベルトウェイングフィーダ



カセットウェイングフィーダ

<産業用はかり>



ポイドメータ



フレコンバックスケール

制御システム事業



クリーン精米屋

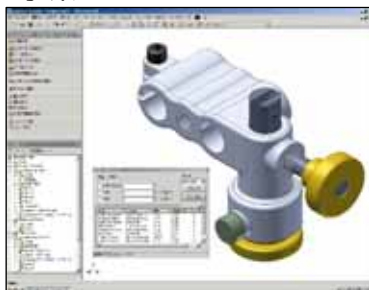


色彩選別機KG-A



フルーツセクター・ボイスガイド

CAD事業



クボタ Design FACT
(Autodesk Inventor
(3次元CAD)対応)



クボタ K-CAD PEDRAS AC
(AutoCAD対応)

久宝寺事業センター

(2)リサイクル事業ユニット



マスチフ(一軸破碎機)



アイダル
(豎形回転式破碎機)

(3)クボタメンブレン株式会社



浸漬型膜分離装置
液中膜



膜カートリッジ

3 工場変遷

昭和48年 9月22日	船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
昭和52年	粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
昭和60年	電子部品組立部門の発足。
昭和61年	K - C A Dの開発開始。
平成元年	自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
平成10年 4月	技術開発本部電子技術センターが転入。
平成12年 4月	電装機器事業部F A営業部およびその関連会社である(株)クボタ計装関西支社が転入。
平成13年 8月	リサイクルエンジニアリング部の製造課が当事業所の所在のまま、関連会社であるクボタリテックス(株)に移管。
平成13年10月	F A技術部がF Aエンジニアリング部に集約。
平成14年 2月	水環境エンジニアリング事業部門の関連会社であるクボタメンブレン(株)が転入。
平成14年 3月	技術開発本部電子技術センターが転出。
平成14年10月	事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
平成14年11月	リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
平成15年10月	平成14年に阪神事務所に転出したリサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
平成16年10月	ロードセル課と電子機器課がF Aエンジニアリング部傘下に編入。また、開発課が新規に発足。
平成17年 4月	電装機器事業部におけるはかり事業の再編成が行われ、F A営業部とF Aエンジニアリング部がB U(ビジネスユニット)分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
平成18年 5月	環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
平成19年 5月	環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。
平成20年 4月	電装機器事業部の計量システム部と計量機器部が計量システム部に統合。
平成20年 8月	膜ソリューション技術部及び環境機器開発センターの実験設備を当所に移管設置。

久宝寺事業センター

4 環境方針

▶ ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2006年6月1日改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、電子・電気をコア技術とした生活の基本となる計量器や精米機などの電装機器事業、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業、及び汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の3つの事業が開発・生産を行なっています。更に、計量器の販売・サービスに携わる(株)クボタ計装、液中膜の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)、金型温調機・計量混合機等を製造・販売するクボタカラートロニック(株)の3つのクボタグループ会社がそれぞれの所属する事業部と連携しながら事業活動を行っています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが助け合い、連携しあって、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

【久宝寺事業センター 環境行動指針】

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップに意を用い、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだ製品アセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料、部品に加えて、梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社のより多くの人々が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員に配布し、教育、啓発に活用します。又、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂4 2007年 7月27日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

▶ ISO認証取得状況

1999年3月 ISO14001(1996年版)を取得

2006年3月 ISO14001(2004年版)で更新

5 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	最終達成目標		2007年度		
				数値	達成年度	目標	成果	自己評価
地球温暖化の防止	温室効果ガスの削減	CO ₂ 排出原単位	前年度	前年度比 1%	-	1% (10.93トン/億円)	13.8% (12.56トン/億円)	×
		CO ₂ 排出量	1990	1990年度以下 (2021.35トン)	2012	44.9% (1114.39トン)	44.3% (1126.09トン)	
	物流のCO ₂ 削減	CO ₂ 排出原単位	前年度	前年度比 1%	-	1% (0.2219 t-CO ₂ /千トンキロ)	2.1% (0.2289 t-CO ₂ /千トンキロ)	×
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出量原単位	前年度	前年度比 2%	-	2% (3.53トン/億円)	1.1% (3.56トン/億円)	
		廃棄物排出量	前年度	前年度比 1%	-	2% (360.2トン)	13.1% (319.4トン)	
		埋立比率 (処分残渣含む)	-	0.5%以下	2012	1.2%	1.1%	
	水資源の節約	総使用量	前年度	前年度比 1%	-	1% (12,970m ³)	14.3% (15,043m ³)	×
		使用量原単位	前年度	前年度比 1%	-	1% (127.2m ³ /億円)	30% (167.8m ³ /億円)	×
	紙資源の節約	OA用紙使用量	前年度	前年度比 2%	-	2% (17.284トン)	8.5% (16.142トン)	
	グリーン購入の推進	購入金額比率	-	100%	2012	80%	65.7%	×
有害化学物質の削減	PRTR対象物質の削減	排出移動量原単位	前年度	前年度比 2%	-	2% (36.66kg/億円)	8.2% (34.34kg/億円)	
		排出移動量 (=取扱量)	前年度	前年度比 2%	-	2% (3738kg)	19.3% (3079kg)	

自己評価の基準 : 目標超過達成 : 目標達成 : 目標一部達成 × : 目標未達成

<備考> 1) 内作生産金額が前年比12%減少したために、相対的に原単位が悪くなった。

2) グリーン購入については、一般サイト(アスクール)で購入したグリーン購入比率が悪く(グリーン仕分け不明)、全体としてグリーン購入比率が悪化した。

環境 TOPICS

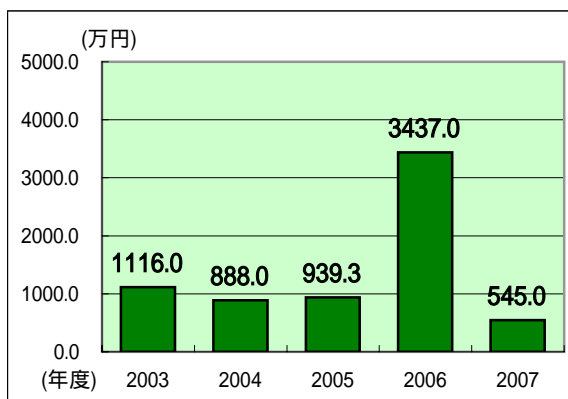
- 1) 職場のレイアウト変更(第1工場南西棟1階)に伴い、50RT×4式のガス炊吸収式空調機を2式に削減(不足場所はスポット空調を導入)し、CO₂排出量の削減を図った。<実施:平成19年10月>
<省エネ効果> 原油換算使用量削減 = 23kl/年 CO₂排出量削減 = 47 t-CO₂/年
- 2) 天井水銀灯700W×32灯をメタルハライドランプ400W×32灯に更新し、CO₂排出量の削減を図った。<実施:平成20年2月>
<省エネ効果> 原油換算使用量削減 = 4.1kl/年 CO₂排出量削減 = 4.2 t-CO₂/年

久宝寺事業センター

6 環境会計

環境投資

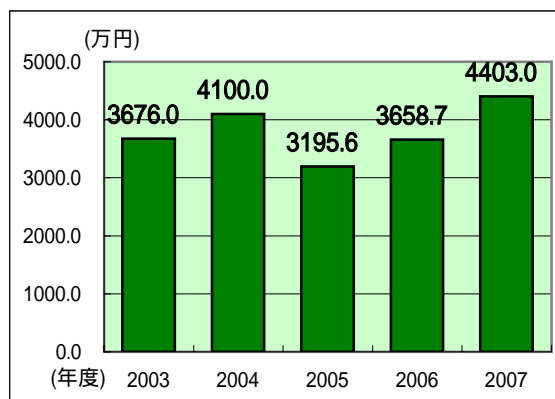
2007年度:545.0万円



環境保全費用

2007年度:4403.0万円

人件費は含んでいません。



環境保全効果

効果の内容	効果	2006年度	2007年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	33515.29	33743.89	228.60	0.7%
	水使用量(m ³)	13158.00	15043.00	1885.00	14.3%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	1125.65	1126.09	0.44	0.0%
	SO _x 排出量(t)				
	NO _x 排出量(t)				
	ばいじん排出量(t)				
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	3.81	3.08	0.73	19.3%
	廃棄物排出量(t)	367.54	319.43	48.11	13.1%
廃棄物埋立比率(%)<処分残渣含む>	1.4	1.1	0.3	21.4%	

経済効果

2007年度:354万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	ガス炊く空調機の負荷半減による省エネ	155 万円
	照明器具の更新(700W 400W 28灯)による省エネ	24 万円
物流環境保全対策	北海道への定期船便集約出荷による物流改善	150 万円
	固定客先納入品のJR貨物輸送化による物流改善	25 万円
合計		354 万円

久宝寺事業センター

7 環境パフォーマンス

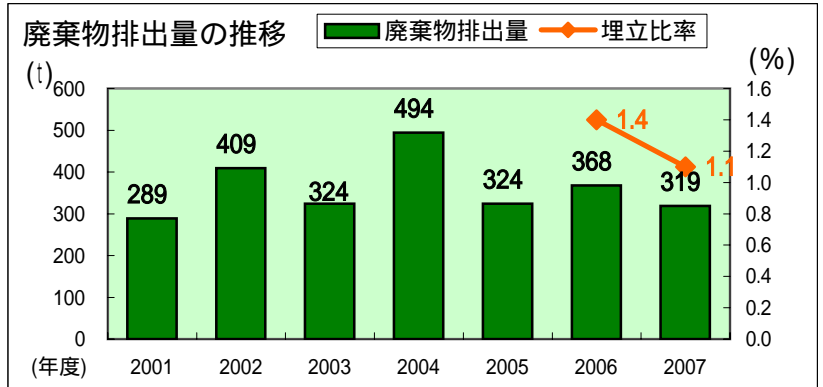
循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

埋立比率(処分残渣含む)低減

最終目標:2012年度に0.5%以下

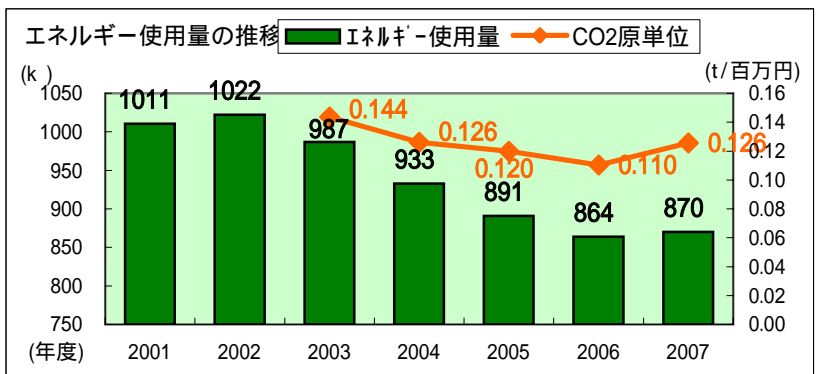
2000年度に直接埋立"0"を達成しました。



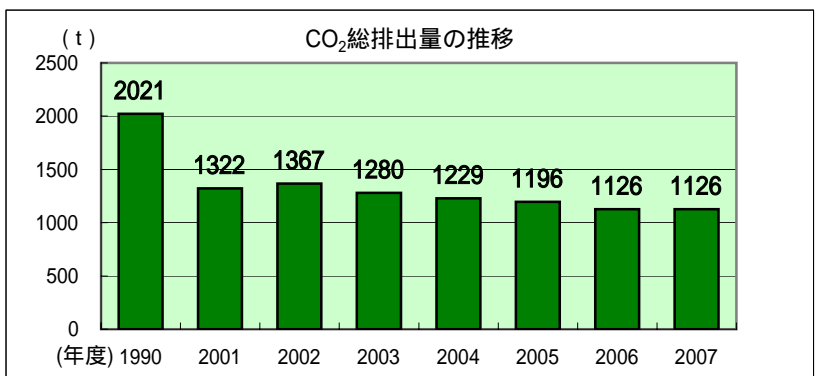
地球温暖化の防止

省エネルギー、

温室効果ガスの削減

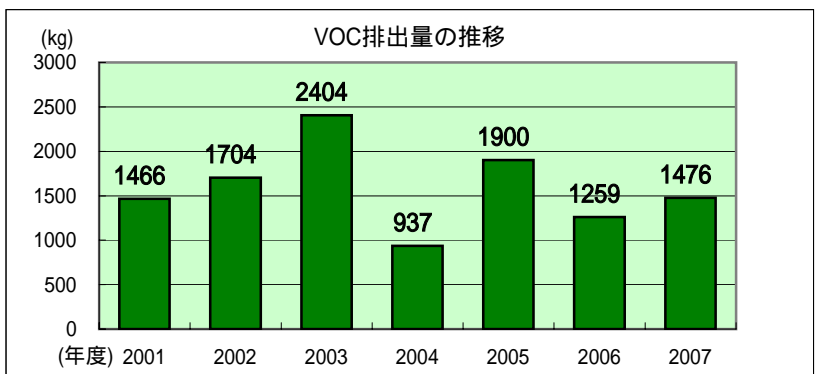


CO₂総排出量の削減



有害化学物質の削減

VOC大気排出量の削減



久宝寺事業センター

PRTR法対象物質の排出量・移動量(2007年度)

(単位:kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
63	キシレン	917					554
227	トルエン	228					552
227	トルエン	331					497

8 環境コミュニケーション

地域美化活動

名 称 事業所周辺地域清掃

	日 付	参加人数
1.	2007年4月24日	20名
2.	2007年5月29日	20名
3.	2007年6月26日	20名
4.	2007年7月24日	20名
5.	2007年8月28日	20名
6.	2007年9月25日	20名
7.	2007年10月23日	20名
8.	2007年11月27日	20名
9.	2007年12月18日	20名
10.	2008年1月29日	20名
11.	2008年2月26日	20名
12.	2008年3月25日	20名



火災予防活動で表彰状を受賞

危険物施設の安全管理と職場の防災意識の高揚に努めたことで、八尾市消防長・八尾火災予防協会より表彰状を頂きました。



久宝寺事業センター



サイトデータ

(2007年度実績)

▶ INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算GJ	
エネルギー	電気	万kWh	258.8	25416.0
	石炭コークス	t		
	都市ガス	千m ³	141.4	6505.0
	灯油	k	14.0	513.8
	軽油	k	0.0	0.0
	重油	k		
	LPG	t	25.7	1288.4
	ガソリン	k	0.6	20.8
	合計		-	33743.9

水使用量	万m ³	1.5
------	-----------------	-----

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1126.09
---------------------	-------------------	---------

放流先	項目	単位	1排水口	
			規制値	測定値
公共用水域	pH	-		
	BOD	mg/		
	COD	mg/		
	窒素	mg/		
	りん	mg/		
	六価クロム	mg/		
	鉛	mg/		
	COD総量規制値	kg/日		
	窒素総量規制値	kg/日		
	りん総量規制値	kg/日		
	下水道	pH	-	5.7 ~ 8.7
BOD		mg/	300	2.0
COD		mg/		
SS		mg/	300	2未満
フェノール類含有量		mg/	5	0.007
沃素消費量		mg/	220	0.6
鉍物油		mg/	5	0.2

廃棄物排出量	t	319.4
再資源化率	%	90.8